

松 山 大 学 論 集
第 20 卷 第 2 号 抜 刷
2 0 0 8 年 6 月 発 行

住民参加と居住満足感
—— 松山市余土地区意識調査より ——

市 川 虎 彦

住民参加と居住満足感

—— 松山市余土地区意識調査より ——

市 川 虎 彦

1 はじめに～地域自治へ向かわせるもの

高度経済成長とそれにとまなう地域社会の流動化に直面して、1960年代末以降、コミュニティづくりやコミュニティ政策が持続的に論じられてきており、また実際に行政の施策として実行に移されてきた。さらに近年では、「まちづくり」や「住民参画」が、議論の俎上へと上ようになってきている。それとは裏腹に、地域自治の空洞化や担い手の不在、近隣関係の衰退を指摘する声も絶えることなくある。

そのような中で、全国にまちづくり協議会という名称の地域自治組織が広がりつつある。まちづくり協議会には、任意のものと条例によって定められたものがある。小学校区程度の広さの地域で、自治の中心的な担い手となり、行政などと連携して地域づくりを進めていっている例が各地にある¹⁾。松山市でも、このまちづくり協議会の設立準備が進められており、今回、その前段階として市内の余土地区の住民を対象に、まちづくりや地域生活に関する意識調査が行われた。本稿は、そのデータを用いて、地域住民の居住満足度がどのような要因に規定されているのか、地域自治組織への参加意志はどのような人々にあるのか、また自治への参加は地域生活での充足感から発するのか、それとも不満感から発するのかなどについて、具体的に論じていくことにする。

まず次節で余土地区と意識調査の概要について述べ、3節では地域住民の居住満足度と地域行事への参加の実状を明らかにする。その上で、4節では重回

帰分析という手法を用いて居住満足度の規定要因を探る。5節ではまちづくり協議会への参加意志の具体的な姿を示し、最後に前に提示した問いに答えることにする。なお、図表に記した $p < 0.01$ はカイ2乗検定の結果1%水準で有意だったことを表している。

- 1) 鳥越皓之『「サザエさん」的コミュニティの法則』日本放送出版協会, 2008, P. 107~142
滝本佳史『地域計画の社会学』昭和堂, 2005, P. 101~104 参照。

2 松山市余土地区と調査の概要

松山市は、旧市街地からみて北や西に位置する海沿いの地域とは、すでに戦前に自治体合併を行っていた。海に面していない南側の地域とは、隣接していても合併が行われていなかった。余土地区もそうした地域の一つであり、余土村のまま戦後に至った(位置については末尾の図1を参照)。その後、国によって推進されたいわゆる「昭和の大合併」の時期に、松山市に編入されることとなった(1954年10月1日合併)。

以後、松山市は自治体合併を随時行い、近年では「平成の大合併」で北条市・中島町を編入し、人口50万人を超える都市に成長した。1960年国勢調査時と比べると、人口は約2倍になっている。余土地区は、同じ期間に松山市を大幅に上回る約5倍の人口成長を記録している。余土地区の農業の経営耕地総面積は、1975年の21,079aから2000年には7,676aまで減少している。この間、宅地開発がすすめられた。『松山市史』にも、1970年頃、「桑原小学校、生石小学校、余土小学校、雄郡小学校など郊外の新興住宅地の小学校で教室不足が目立った」という記述がみられる²⁾。現在、余土地区に居住している住民は、旧余土村の外部から流入してきた人の方が主流である。

ちなみに旧市域(本庁区)の人口は、国勢調査時でみると1970年まで増加しているが、そこから1990年まで減少に転じてしまう。松山市でも郊外化の傾向が現れていた。しかし、90年を底に現在では再び増勢に向かっており、

表1 人口の推移 [人]

	松山市	本庁区	余土
1960	262,044	120,165	4,599
1965	290,662	130,365	6,241
1970	322,902	133,071	9,298
1975	367,323	129,202	13,142
1980	401,703	125,408	15,701
1985	426,658	126,233	18,112
1990	443,322	124,264	20,080
1995	460,870	125,882	21,475
2000	473,379	128,553	21,887
2005	514,937	130,167	22,924

出処)『松山市統計書』松山市役所より作成

都心回帰とも呼ぶべき傾向が観察されるようになってきている。実際、松山市では2000年以降、「第3次マンションブーム」と称される分譲の集合住宅の建設が続いており、その多くが旧市域に建設されている。

現在、余土地区には、JR予讃線の市坪駅が存在している。また、市中心部から松前町、伊予市へと通じる私鉄の一路線（伊予鉄郡中線）が通っている。道路は、松前町へ向かう片側2車線の国道56号線が地区内を走っている。このように余土地区は、松山市中心部に隣接した地域であり、かつ交通の便に恵まれた地域でもある。

この余土地区の20歳以上の住民を対象に、地域に対する要望や地域生活に関わる意識に関し、「まちづくりアンケート」と題した調査票による調査が行われた。調査対象者は、市が住民基本台帳より2,000人を無作為抽出した。2008年1月に調査対象地域の町連を通じて調査票の配布と回収を行った（回収は郵便による返送も可）。回収された調査票は1,070票で、回収率は53.5%であった。性別、年代の内訳は、表2～3に示したとおりである。

世帯構成をみると、新興住宅地という性格からか、核家族が半数を占める。特に30代から40代では6割～7割が核家族世帯である。50代以上になると、

表2 性別 [人(%)]

男性	459 (42.9)
女性	603 (56.4)
無回答	8 (0.7)
計	1,070 (100.0)

表3 年代 [人(%)]

20歳代	85 (7.9)
30歳代	192 (17.9)
40歳代	183 (17.1)
50歳代	207 (19.3)
60歳代	210 (19.6)
70歳以上	190 (17.8)
無回答	3 (0.3)

表4 世帯構成 [人(%)]

単身	130 (12.1)
夫婦のみ	293 (27.4)
2世代 (夫婦と子供)	514 (48.0)
3世代以上	120 (11.2)
無回答	13 (1.2)

表5 年代×世帯構成

[人(%)]

	単身	夫婦のみ	2世代	3世代以上	%の基数
20歳代	24 (28.2)	10 (11.8)	43 (50.6)	8 (9.4)	85
30歳代	25 (13.2)	26 (13.8)	118 (62.4)	20 (10.6)	189
40歳代	13 (7.2)	16 (8.8)	131 (72.4)	21 (11.6)	181
50歳代	19 (9.2)	63 (30.6)	98 (47.6)	26 (12.6)	206
60歳代	18 (8.7)	101 (48.6)	71 (34.1)	18 (8.7)	208
70歳以上	31 (16.5)	77 (41.0)	53 (28.2)	27 (14.4)	188
計	130 (12.3)	293 (27.7)	514 (48.6)	120 (11.4)	1,057

子供が独立していくために夫婦のみ世帯が増えてくる。単身世帯が最も多い年代は20代で、28%になる。市街地に近い地域なので、単身向け賃貸住宅も立地していることがうかがわれる。

回答者の居住形態をみると持ち家が75.5%ということになる。60代以上では、90%以上が持ち家という回答をしている。現在の住居が持ち家だという人は30代で最も少なく、持ち家層と賃貸住宅層がほぼ半分ずつである。40代になると、持ち家だという人の割合が70%を超えるところまで急上昇する。

居住期間をみると、余土地区に住んで30年以上になるという人が全体の3分の1に上る。年代別にみると、30代の約60%が居住期間10年未満である。

表6 居住形態 [人(%)]

持家（家族のものも含む）	808 (75.5)
賃貸	256 (23.9)
無回答	6 (0.6)

表7 年代×居住形態 [人(%)]

	持ち家	賃貸	％の基数
20歳代	57 (67.9)	27 (32.1)	84
30歳代	97 (50.5)	95 (49.5)	192
40歳代	133 (72.7)	50 (27.3)	183
50歳代	159 (77.2)	47 (22.8)	206
60歳代	189 (90.4)	20 (9.6)	209
70歳以上	173 (91.1)	17 (8.9)	190
計	808 (75.9)	256 (24.1)	1,064

表8 居住期間 [人(%)]

10年未満	277 (25.9)
10年以上20年未満	202 (18.9)
20年以上30年未満	226 (21.1)
30年以上	361 (33.7)
無回答	4 (0.4)

表9 年代×居住期間

[人(%)]

	10年未満	10年～20年	20年～30年	30年以上	%の基数
20歳代	31 (36.5)	20 (23.5)	33 (38.8)	1 (1.2)	84
30歳代	114 (59.7)	25 (13.1)	22 (11.5)	30 (15.7)	192
40歳代	65 (35.5)	57 (31.1)	29 (15.8)	32 (17.5)	183
50歳代	33 (15.9)	57 (27.5)	63 (30.4)	54 (26.1)	206
60歳代	22 (10.5)	27 (12.9)	52 (24.8)	109 (51.9)	209
70歳以上	12 (6.3)	16 (8.4)	27 (14.2)	135 (71.1)	190
計	277 (26.0)	202 (18.9)	226 (21.2)	361 (33.9)	1,064

世帯構成や居住形態を考えあわせると、余土地区には、30代から40代にかけての時期に、賃貸のいわゆるファミリータイプのマンションに入居したり、あるいは新居を購入して流入してくる人が多いと考えられよう。

余土地区は、市坪・保免・余戸に分けられる。回答者の居住地域は、表10に示したとおりである。

表10 居住地区 [人(%)]

市坪	113 (10.6)
保免	334 (31.2)
余戸東	165 (15.4)
余戸中	187 (17.5)
余戸南	174 (16.3)
余戸西	91 (8.5)
無回答	6 (0.6)

2) 『松山市史第4巻 現代』松山市役所, 1995年, P. 297

3 余土地区の居住満足度と地域参加の実態

それでは、余土地区の住みごころは、どのように評価されているのであろうか。調査では、「余土地区に居住して満足していますか」という質問で、居住満足度を尋ねている。「非常に満足」という人は9.6%で少ない。しかし、「満

表 11 居住満足度 [人(%)]

非常に満足	103 (9.6)
満足	491 (45.9)
どちらかといえば満足	366 (34.2)
あまり満足していない	87 (8.1)
満足していない	17 (1.6)
無回答	6 (0.6)

足」と答えている人は45.9%で、あわせると55.5%になる。一方、「あまり満足していない」「満足していない」は、それぞれ8.1%、1.6%で、合計しても10%以下にとどまっている。

性別や年代と、居住満足度との間には関連がみられなかった。世帯構成との間には関連がみられ、3世代以上同居している家族で最も満足度が高く、次いで核家族世帯（2世代同居）の満足度が高かった。それらと比較すると、単身世帯や夫婦のみの世帯の満足度は劣る。

また、居住形態と居住満足度との間にも関連がみられた。持ち家世帯の方

表 12 世帯構成×居住満足度

[人(%)]

	非常に満足	満足	どちらかといえば満足	満足していない	%の基数
単身	6 (1.6)	64 (49.2)	47 (36.2)	13 (10.0)	130
夫婦のみ	23 (7.9)	125 (43.0)	106 (36.4)	37 (12.7)	291
2世代	48 (9.4)	234 (45.9)	184 (36.1)	37 (8.6)	510
3世代	20 (16.7)	63 (52.5)	28 (23.3)	9 (7.5)	120
計	97 (9.2)	486 (46.2)	365 (34.7)	103 (9.8)	1,051

注)「満足していない」は「あまり満足していない」「満足していない」を統合 p<0.01

表 13 居住形態×居住満足度

[人(%)]

	非常に満足	満足	どちらかといえば満足	満足していない	%の基数
持ち家	91 (11.3)	376 (46.8)	265 (33.0)	72 (9.0)	804
賃貸	12 (4.7)	110 (43.3)	100 (39.4)	32 (12.6)	254
計	103 (9.7)	486 (45.9)	365 (34.5)	104 (9.8)	1,058

注)「満足していない」は「あまり満足していない」「満足していない」を統合 p<0.01

表 14 居住期間×居住満足度 [人(%)]

	非常に満足	満足	どちらかといえば満足	満足していない	%の基数
10年未満	12 (4.4)	110 (40.1)	114 (41.6)	38 (13.9)	274
10～20年	19 (9.5)	75 (37.5)	83 (41.5)	23 (11.5)	200
20～30年	27 (11.0)	109 (48.4)	72 (32.0)	17 (7.6)	225
30年以上	45 (12.5)	194 (53.7)	96 (26.6)	26 (7.2)	361
計	103 (9.7)	488 (46.0)	365 (34.4)	104 (9.8)	1,060

注)「満足していない」は「あまり満足していない」「満足していない」を統合 p<0.01

が、賃貸居住の世帯よりも満足度の高い人が多い。

居住満足度は年代との間に関連はなかったが、居住期間との間には関連がみられた。居住年数が長くなるほど、満足度は上昇している。

それでは、余土地区の人々は、地域社会とどのような関わりをもって生活しているであろうか。地域で行われる11の行事への参加状況を尋ねてみた。「市民大清掃」というのは、毎年1回、全市的に行われている地域の清掃である。「地方祭」は、10月初旬に行われる。名称は即物的だが、それぞれの地域に根ざした秋祭りである。神輿の鉢合わせは怪我人もでる盛り上がりを見せ、市民の関心もそれなりに高い行事である。

参加率が高いのは、水路掃除・市民大清掃といった地区清掃である。これは、世帯ごとに半強制的な参加を求められる行事であるせいであろう。つづいて、前に述べたような理由から、地方祭の参加率が高い。その次に、運動会・町内会総会が4割を超える参加率になっている。

性別でみると全般的に女性の方が地域行事への参加率が高い。男性の方が、有意に参加率が高いのは、水路掃除のみである。

年代別に地域行事の参加状況をみてみたい。全般的に20代・30代の参加が少ない傾向にある。30代は前節で述べたように、この地区へ流入してくる年代のためか、地方祭・運動会・盆踊りなどで20代よりも参加率が低く、全年代を通じて最低になっている。40代は、地方祭(62.3%)・子ども会行事(50.3%)・盆踊り(37.2%)・運動会(57.9%)などで、全年代を通じて最も

表 15 参加したことのある地域行事（複数選択式）[人(%)]

	全 体	男性の参加率	女性の参加率
水路掃除	603 (56.4)	61.7%	51.9%
市民大清掃	579 (54.1)	55.1%	53.6%
地方祭	551 (51.5)	46.2%	55.5%
運動会	492 (46.0)	41.4%	49.6%
町内会の総会など	443 (41.4)	39.7%	42.7%
子ども会行事	333 (31.1)	21.1%	38.8%
盆踊り	287 (26.8)	17.6%	33.8%
体育行事	202 (18.9)	19.0%	18.8%
文化行事	199 (18.6)	13.9%	21.9%
防災訓練	157 (14.7)	11.3%	17.1%
敬老行事	131 (12.2)	13.3%	11.1%

表 16 年代×参加したことのある地域行事（複数選択式）

[%]

	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
水路掃除	20.0	34.9	57.9	61.8	76.7	63.7
市民大清掃	31.8	35.9	50.8	53.6	71.0	67.4
地方祭	55.3	41.1	62.3	49.3	55.7	47.1
運動会	41.0	28.6	57.9	47.3	52.4	45.8
町内会の総会など	8.2	15.6	40.4	50.2	53.8	59.3
子ども会行事	27.1	27.6	50.3	41.1	21.0	17.9
盆踊り	29.4	17.7	37.2	25.1	28.1	24.7
体育行事	8.2	9.9	25.7	19.8	22.9	20.1
文化行事	4.7	10.4	22.4	17.4	22.9	25.3
防災訓練	2.4	5.2	8.2	17.9	23.3	22.2
敬老行事	3.5	0.0	2.2	4.8	14.8	42.6

高い参加率を示している。40代になると子どもを通じて急速に地域社会との関わりができていく様子が見えてくる。

4 居住満足度とその要因

余土地区の地域生活に関して表 17 に示したような 13 項目に関して、「余土

地区の良いと思うところと悪いと思うところ」を選んでもらった。「良い」と評価した人が最も多かったのは「買い物などの日常生活が便利」で82.6%、次いで「通勤・通学がしやすい」が69.9%、「電車やバスなどの公共交通機関が便利」69.6%となっている。第2節で述べたように、中心市街地に近く、公共交通機関が地区内を走っているということが、このような評価につながっているのであろう。逆に、「悪い」と評価した人が多かったのは、「児童公園や生活道路などの整備が充実している」が50.4%、「地域活動が活発」が40.4%、「街並みや住環境が魅力的」が39.4%であった。自由回答欄に生活道の狭さに関する書き込みが多くみられたので、生活道に関しては不満に思っている人が多いことがうかがわれる。

年代との関連がみられたのは「街並みや住環境が魅力的」「教育環境が良い」「行政や金融機関などの公共サービスが充実している」「近所付き合いが良い」「地域活動が活発」の5項目であった。「街並みや住環境」に関しては、20代・30代・40代では、むしろ「良い」と評価する人の方が多い。60代・70代にな

表17 余土地区の良いと思うところと悪いと思うところ [人(%)]

	良 い	悪 い	無回答
街並みや住環境が魅力的	471 (44.0)	422 (39.4)	177 (16.5)
日々の暮らしが安全で安心して生活できる	722 (67.5)	232 (21.7)	116 (10.8)
電車やバスなどの公共交通機関が便利	743 (69.4)	274 (25.6)	53 (5.0)
通勤・通学がしやすい	748 (69.9)	214 (20.0)	108 (10.1)
買い物などの日常生活が便利	884 (82.6)	112 (10.5)	74 (6.9)
医療機関や福祉施設が充実している	544 (50.8)	371 (34.7)	155 (14.5)
子育てがしやすい	631 (59.0)	218 (20.4)	221 (20.6)
教育環境が良い	629 (58.8)	237 (22.1)	204 (19.1)
児童公園や生活道路などの整備が充実している	386 (36.1)	539 (50.4)	145 (13.5)
行政や金融機関などの公共サービスが充実している	536 (50.1)	374 (35.0)	160 (14.9)
中央公園や国道などの整備がなされ利用しやすい	650 (60.7)	263 (24.6)	157 (14.6)
近所付き合いが良い	555 (51.9)	354 (33.1)	161 (15.0)
地域活動が活発	428 (40.0)	432 (40.4)	210 (19.7)

ると「悪い」と評価する人が多くなる。自由回答欄に「昔の風景がなくなって
いっている」という記述がみられたこともあり、高齢者層の住環境への不満
は、かつての田園風景がなくなっていることから生じているのではないかと思
われる。40代以下では、住宅地として評価する人の方が多数派ということであ
ろう。

「教育環境」に関しては、60代以上の高齢者層での評価が良い。また、実際
に教育期間中の子どもをもつ人が多いであろう40代でも良いと評価を下す人
が多い。

「公共サービス」に関しても、教育環境と同じ傾向で、40代・60代・70代

表 18 年代×街並みや住環境が魅力的 [人(%)]

	良 い	悪 い	%の基数
20歳代	47 (61.8)	29 (38.0)	76
30歳代	106 (62.0)	65 (38.0)	171
40歳代	94 (59.9)	63 (40.1)	157
50歳代	92 (52.6)	83 (47.4)	175
60歳代	67 (40.4)	99 (59.6)	166
70歳以上	63 (43.4)	82 (56.6)	145
計	469 (52.7)	421 (47.3)	890

p<0.01

表 19 年代×教育環境が良い [人(%)]

	良 い	悪 い	%の基数
20歳代	49 (66.2)	25 (33.8)	74
30歳代	114 (69.5)	50 (30.5)	164
40歳代	116 (74.8)	39 (25.2)	155
50歳代	110 (66.7)	55 (33.3)	165
60歳代	118 (72.8)	44 (27.2)	162
70歳以上	120 (83.9)	23 (16.1)	143
計	627 (72.7)	236 (27.3)	863

p<0.01

表 20 年代×行政や金融機関などの公共サービスが充実している

	[人(%)]		
	良 い	悪 い	%の基数
20歳代	35 (45.5)	42 (54.5)	77
30歳代	93 (53.8)	80 (46.2)	173
40歳代	99 (62.3)	60 (37.7)	159
50歳代	90 (54.2)	76 (45.8)	166
60歳代	113 (62.8)	67 (37.2)	180
70歳以上	104 (68.4)	48 (31.6)	152
計	534 (58.9)	373 (41.1)	907

p<0.01

では良いという人が多い。逆に20代では、悪いとする人の方が多くなっている。

「近所付き合い」も、居住年数の長い人が多い60代・70代で良いという評価の人が多。次いで良いという評価の人が多なのが30代である。第2節でみたように、30代は他の年代と比較して、むしろ居住年数の短い人が多かったり、賃貸住宅に住む人が多い。余土地区に他の地域から移ってきて、本格的に地域社会との関わりができてきたところで、新住民同士の付き合いがうまくなされているのかもしれない。

また、「地域活動が活発」だと評価している人の比率も、30代で最も高い。

表 21 年代×近所付き合いが良い [人(%)]

	良 い	悪 い	%の基数
20歳代	45 (58.4)	32 (41.6)	77
30歳代	107 (64.1)	60 (35.9)	167
40歳代	81 (51.3)	77 (48.7)	158
50歳代	98 (57.0)	74 (43.0)	172
60歳代	113 (63.8)	64 (36.2)	177
70歳以上	109 (70.3)	46 (29.7)	155
計	553 (61.0)	353 (39.0)	906

p<0.01

第3節でみたように、実際には30代の地域行事への参加率は低い。にもかかわらず、地域活動が活発だと感じている人が多いわけである。地域社会との関わりが薄い20代の時期と比べ、新たに地域社会との関係を取り結ぶようになる30代の頃は、地域活動を改めて身近に感じるようになるのかもしれない。

それでは、これら地域生活に関する評価項目のうち、とりわけ何が居住満足度に影響を与えているのだろうか。そこで、居住満足度を被説明変数とし、13の評価項目を説明変数とする重回帰分析をステップワイズ法で行ってみた。居住満足度は、「非常に満足」に5を割り当て、以下「非常に不満」まで、調査票の選択肢の数字を反転させた値をわりふった。評価に関しては「良い」に3、「悪い」に1をわりふり、無回答は「どちらともいえない」と解釈して2を割

表 22 年代×地域活動が活発 [人(%)]

	良 い	悪 い	%の基数
20歳代	30 (39.0)	47 (61.0)	77
30歳代	103 (62.0)	63 (38.0)	166
40歳代	91 (58.3)	65 (41.7)	156
50歳代	65 (40.1)	97 (59.9)	162
60歳代	71 (44.9)	87 (55.1)	158
70歳以上	66 (47.8)	71 (52.2)	138
計	426 (49.7)	431 (50.3)	857

p<0.01

表 23 居住満足度を被説明変数とする重回帰分析

説明変数	標準偏回帰係数	相関係数
街並みや住環境が魅力的	.18	.32
日々の暮らしが安全で安心して生活できる	.21	.33
近所付き合いが良い	.18	.30
買い物などの日常生活が便利	.14	.21
教育環境が良い	.13	.29
通勤・通学がしやすい	.12	.22
決定係数	.28	
自由度調整済み決定係数	.27	

り当てて分析を行った。その結果、説明変数として残ったのは、「街並みや住環境が魅力的」「日々の暮らしが安全で安心して生活できる」「近所付き合いが良い」「買い物などの日常生活が便利」「教育環境が良い」「通勤・通学がしやすい」の6項目であった。なお、この重回帰分析における決定係数は0.28、自由度調整済み決定係数は0.27であり、モデルとして有効であった。

住環境・教育環境・安全な暮らしという生活の基盤になる部分と、買い物や通勤・通学の便などの利便性に対する評価がよくなると居住満足度が上昇するという関係になっている。それに加えて、近所付き合いという近隣交際の善し悪しが、居住満足度に影響を与えていることがわかる。

5 まちづくり協議会への参加意志と期待項目

今回の調査では、松山市が各地区ごとに設立を準備しているまちづくり協議会への参加意志を、「まちづくり協議会にボランティアとして参加してみたいですか」という形で尋ねている。「参加したい」というのは、全体のわずか2.1%にすぎなかった。しかし、「機会があれば参加したい」という留保付きの回答は、48.9%で、全体の半数近くにのぼった。

表 24 まちづくり協議会への参加意志

	[人(%)]
参加したい	23 (2.1)
機会があれば参加したい	523 (48.9)
参加したくない	505 (47.2)
無回答	19 (1.8)

まちづくり協議会への参加意志と性別との間には関連がみられた。男性の方が、参加を希望する人の比率が高くなっている。第3節でみたように、実際に地域行事に参加している比率は、ほとんどの行事に関して女性の方が高かった。しかし、まちづくり協議会においては、男性の希望者の比率の方が高くなっている。

表 25 性別×まちづくり協議会への参加意志 [人(%)]

	参加したい	機会があれば	参加したくない	%の基数
男性	17 (3.7)	240 (52.7)	198 (43.5)	455
女性	6 (1.0)	280 (47.5)	304 (51.5)	590
計	23 (2.2)	520 (49.8)	502 (48.0)	1,045

p<0.01

表 26 年代×まちづくり協議会への参加意志 [人(%)]

	参加したい	機会があれば	参加したくない	%の基数
20代	3 (3.5)	32 (37.6)	50 (58.8)	85
30代	1 (0.5)	105 (55.6)	83 (43.9)	189
40代	3 (1.6)	86 (47.0)	94 (51.4)	183
50代	1 (0.5)	98 (48.0)	105 (51.5)	204
60代	10 (4.8)	123 (59.1)	75 (36.1)	208
70代	5 (2.8)	78 (43.1)	98 (54.1)	181
計	23 (2.2)	522 (49.7)	505 (48.1)	1,050

p<0.01

年代との間にも関連がみられる。まちづくり協議会に対して最も「参加したくない」と回答した人の比率が高いのは20代である。「参加したくない」という人の比率が最も低いのは60代で36.1%、次いで30代の43.9%である。この両年代以外は、「参加したくない」という回答の比率が50%を超えている。

さらに、性別および年代とまちづくり協議会への参加意志を3重クロス集計してみた。最も参加意志の比率が高いのは60代男性で、「参加したい」「機会があれば参加したい」を合計すると74.3%になり、他の範疇を圧している。次が30代女性で、「参加したい」という人はいないが、「機会があれば参加したい」という回答は57.1%に上る。

居住満足度とまちづくり協議会への参加意志の関連をみると、カイ2乗検定の結果、1%水準で有意であり、関連がみられた。居住満足度が高い人ほどまちづくり協議会への参加希望の比率が高くなる。

それでは、余土地区の住民は、まちづくり協議会に対して、具体的にどのよ

表 27 性別×年代×まちづくり協議会への参加意志 [人(%)]

		参加したい	機会があれば	参加したくない	%の基数
男性	20代	3 (10.7)	11 (39.3)	14 (50.0)	28
	30代	1 (1.2)	45 (53.6)	38 (45.2)	84
	40代	3 (4.5)	30 (44.8)	34 (50.7)	67
	50代	1 (1.2)	41 (48.2)	43 (50.6)	85
	60代	6 (5.7)	72 (68.6)	27 (25.7)	105
	70代	3 (3.5)	40 (47.1)	42 (49.4)	85
	計	17 (3.7)	239 (52.6)	198 (43.6)	454
女性	20代	0 (0.0)	21 (36.8)	36 (63.2)	57
	30代	0 (0.0)	60 (57.1)	45 (42.9)	105
	40代	0 (0.0)	54 (47.4)	60 (52.6)	114
	50代	0 (0.0)	57 (48.3)	61 (51.7)	118
	60代	4 (4.0)	51 (50.5)	46 (45.5)	101
	70代	2 (2.1)	37 (38.9)	56 (58.9)	95
	計	6 (1.0)	280 (47.5)	304 (51.5)	590

表 28 居住満足度×まちづくり協議会への参加意志 [人(%)]

	参加したい	機会があれば	参加したくない	%の基数
非常に満足	1 (1.0)	65 (65.0)	34 (34.0)	100
満足	10 (2.1)	257 (53.0)	218 (44.9)	485
どちらかという満足	6 (1.7)	166 (46.2)	187 (52.1)	259
満足していない	6 (5.9)	31 (30.7)	64 (63.4)	101
計	23 (2.2)	519 (49.7)	503 (48.1)	1,045

注) 「満足していない」は「あまり満足していない」「満足していない」を統合 p<0.01

うなことを期待しているのであろうか。表 29 に示した 12 項目で尋ねてみた。その結果、期待する項目として上位にあがったのは、「安全、安心」(68.6%)・「道路や公園など公共施設の整備」(54.8%)・「行政との窓口、パイプ役」(40.7%)であった。

このまちづくり協議会に期待する項目に対する居住満足度別の選択率を調べてみた。表 30 に示したように、「地域住民の連携」「地域の意見集約」「コミュ

表 29 協議会に期待すること（複数回答）[人(%)]

安全, 安心	734 (68.6)
道路や公園など公共施設の整備	586 (54.8)
行政との窓口, パイプ役	435 (40.7)
地域住民の連携	396 (37.0)
地域の問題解決	385 (36.0)
地域の意見集約	384 (35.9)
景観や道路整備など地域のデザイン	354 (33.1)
コミュニティ活動の充実	230 (21.5)
中学校跡地の活用方策の検討	220 (20.6)
余土中学校の移転	187 (17.5)
人材育成	127 (11.9)
郷土愛の醸成	86 (8.0)

表 30 居住満足度×まちづくり協議会に期待する項目 [%]

	住民連携	意見集約	郷土愛	地域活動	景観・道路	公共施設
非常に満足	47.6	48.5	14.6	35.9	28.2	49.5
満足	39.9	34.2	9.6	23.8	33.0	53.4
どちらかという満足	32.2	35.2	5.7	15.3	32.8	56.6
満足していない	31.7	32.7	2.9	19.2	37.5	60.6
計	37.2	35.8	8.1	21.6	32.9	54.8

注)「満足していない」は「あまり満足していない」「満足していない」を統合

「コミュニティ活動の充実」「郷土愛の醸成」のような地域住民の交流を深めていこうとするような項目を選択する人の比率は、居住満足度の高い人の方が高くなる傾向がある。逆に、「道路や公園など公共施設の整備」「景観や道路整備など地域のデザイン」というようなハード面の整備に関する項目を選択する人の比率は、居住満足度の低い人で高くなる傾向がある。満足度の高い人はソフト面の充実を、満足度の低い人はハード面の整備を望む傾向があるといえよだろうか。

6 地域参加への経路

愛媛県の県庁所在都市・松山市でも、中心市街地に近く、利便性の高い住宅地域である余土地区に関して、地域生活とまちづくり協議会に関する意識を中心に検討を加えてきた。調査結果からは、まちづくり協議会のような地域自治組織への住民の参加意志は、それほど積極的なものではなかった。「機会があれば参加したい」という人まで含めて考えると、地域自治への参加は、地域生活への不満感よりも、その地域に居住していることに対する満足感から生まれてくるといえる。属性的には、60代男性が最も高い比率で参加の意志を示していた。おそらく時間的な余裕ができ、かつ社会経験を生かしたいと意欲をもっている人々なのであろう。

それでは、住民を地域参加へと導く居住満足感とは、どのような要素によって規定されているのであろうか。地域生活にかかわる13の評価項目を説明変数とした重回帰分析の結果から、満足度を左右する要素として生活基盤（住環境・教育環境・安全）、利便性（買い物や通勤・通学の便）、近隣交際があることがわかった。近所付き合いがよいということが、居住満足感に影響を与えているわけである。この近隣交際に関し、居住期間が短い30代の人々の評価が良いことが目を引く（表21参照）。新規に流入してくる人々が、地域社会の中で良好な人間関係を築き始めていることがうかがわれる。このことが、地域自治組織への参加意志が60代に次いで高いことに関係しているかもしれない。

以上のようなことから、まちづくり協議会のような地域自治組織を運営していく際、相対的に若い新住民層をどのように制度的に受け入れていくかということと、意欲的な60代の人的資源をどう活用していくかというようなことが課題になっていくと思われる。また、居住満足度の高さが地域自治組織への参加意志に関連していることから、地域自治組織が成果を上げれば、さらに地域住民の参加意欲を高めるといような、正のフィードバックが生じる可能性もあるといえよう。

付 「まちづくりアンケート」単純集計表 [人 (%)]

問1. 余土地区に居住して満足していますか？

1. 非常に満足	103 (9.6)
2. 満足	491 (45.9)
3. どちらかといえば満足	366 (34.2)
4. あまり満足していない	87 (8.1)
5. 満足していない	17 (1.6)
無回答	6 (0.6)

問2. 余土地区の良いと思うところと悪いと思うところを選択してください。

この問には、良いと思う場合は○を、悪いと思う場合は×をそれぞれ記入してください。

	良い	悪い	無回答
1. 街並みや住環境が魅力的	471 (44.0)	422 (39.4)	177 (16.5)
2. 日々の暮らしが安全で安心して生活できる	722 (67.5)	232 (21.7)	116 (10.8)
3. 電車やバスなどの公共交通機関が便利	743 (69.4)	274 (25.6)	53 (5.0)
4. 通勤・通学がしやすい	748 (69.9)	214 (20.0)	108 (10.1)
5. 買い物などの日常生活が便利	884 (82.6)	112 (10.5)	74 (6.9)
6. 医療機関や福祉施設が充実している	544 (50.8)	371 (34.7)	155 (14.5)
7. 子育てがしやすい	631 (59.0)	218 (20.4)	221 (20.6)
8. 教育環境が良い	629 (58.8)	237 (22.1)	204 (19.1)
9. 児童公園や生活道路などの整備が充実している	386 (36.1)	539 (50.4)	145 (13.5)
10. 行政や金融機関などの公共サービスが充実している	536 (50.1)	374 (35.0)	160 (14.9)
11. 中央公園や国道などの整備がなされ利用しやすい	650 (60.7)	263 (24.6)	157 (14.6)
12. 近所付き合いが良い	555 (51.9)	354 (33.1)	161 (15.0)
13. 地域活動が活発	428 (40.0)	432 (40.4)	210 (19.7)
14. その他 (自由意見))

問3. あなたの参加したことのある地域行事を選択してください。(複数選択可)

1. 運動会	492 (46.0)
2. 体育行事	202 (18.9)
3. 文化行事	199 (18.6)
4. 敬老行事	131 (12.2)
5. 子ども会行事	333 (31.1)
6. 盆踊り	287 (26.8)

7. 地方祭	551 (51.5)
8. 市民大清掃	579 (54.1)
9. 水路掃除	603 (56.4)
10. 防災訓練	157 (14.7)
11. 町内会の総会など	443 (41.4)
12. その他 ()

問4. あなたは地域行事に参加したいと思いますか？

1. 積極的に参加したい	34 (1.8)
2. できれば参加したい	170 (15.9)
3. 内容によっては参加したい	602 (56.3)
4. あまり参加したくない	183 (17.1)
5. 参加したくない	74 (6.9)
無回答	7 (0.7)

問5. あなたの地域の町内会や公民館などの地域活動は活発ですか？

1. 非常に活発	19 (1.8)
2. 活発	148 (13.8)
3. どちらかといえば活発	299 (27.9)
4. あまり活発ではない	202 (18.9)
5. 活発ではない	49 (4.6)
6. わからない	348 (32.5)
無回答	5 (0.5)

問6. 住みやすいまちづくりのために町内会や公民館などの活動は必要だと思いますか？

1. 非常に必要	102 (9.5)
2. 必要	517 (48.3)
3. どちらかといえば必要	299 (27.9)
4. あまり必要ではない	48 (4.5)
5. 必要でない	12 (1.1)
6. わからない	89 (8.3)
無回答	3 (0.3)

問7. 町内会や公民館は身近な存在ですか？

1. 役員などをしている	66 (6.2)
2. 役員などを知っており, 身近な存在である	152 (14.2)

- | | |
|---------------------------------|------------|
| 3. 必要があれば役員などに連絡ができ、比較的身近な存在である | 281 (26.3) |
| 4. 誰が役員をしているか知らず、あまり身近に感じられない | 272 (25.4) |
| 5. 普段の生活で関わりがなく、身近な存在ではない | 287 (26.8) |
| 無回答 | 12 (1.1) |

問 8. あなたは町内会や公民館、子ども会や老友会など何らかの地域のまちづくり活動に関わってみたいと思いますか？

- | | |
|----------------------|------------|
| 1. すでに関わっている | 132 (12.3) |
| 2. 活動の内容によっては関わってみたい | 238 (22.2) |
| 3. 知人に誘われれば関わっても良い | 95 (8.9) |
| 4. 要請があれば関わっても良い | 281 (26.3) |
| 5. できれば関わりたくない | 309 (28.9) |
| 無回答 | 15 (1.4) |

問 9. ご近所の方をよく知っていますか？

- | | |
|-------------------------------------|------------|
| 1. 近隣に友人関係にある人が多く、交流も盛んである | 73 (6.8) |
| 2. 近隣の人をよく知っており、挨拶を交わす人も多い | 368 (34.4) |
| 3. 近隣の人と関わりはあまりないが、挨拶を交わす程度の付き合いはある | 443 (41.4) |
| 4. 回覧板を回す家は、名前が分かる程度である | 80 (7.5) |
| 5. 近所の人とあまり付き合いがなく、近所の人をよく知らない | 104 (9.7) |
| 無回答 | 2 (0.2) |

問 10. 余土地区の歴史や偉人のことを知っていますか？

- | | |
|---------------------|------------|
| 1. 親兄弟、親戚から聞いて知っている | 83 (7.8) |
| 2. 学校で教わって知っている | 111 (10.4) |
| 3. 近所の人から聞いて知っている | 37 (3.5) |
| 4. 地域の学習会で知っている | 38 (3.6) |
| 5. ほとんど知らない | 783 (73.2) |
| 無回答 | 18 (1.7) |

※ 知っていると答えた人は誰を知っていますか？ ()

森盲天外	132 人
森盲天外+他の事柄	38 人
他の事柄	30 人

問 11. 今お住まいの余土地区に愛着を感じますか？

- | | |
|----------------|------------|
| 1. 非常に感じる | 107 (10.0) |
| 2. 感じる | 407 (38.0) |
| 3. どちらかといえば感じる | 361 (33.7) |
| 4. あまり感じない | 157 (14.7) |
| 5. 感じない | 30 (2.8) |
| 無回答 | 8 (0.7) |

問 12. 今後も余土地区に暮らし続けたいですか？

- | | |
|--------------------|------------|
| 1. ぜひ暮らし続けたい | 148 (13.8) |
| 2. 暮らし続けたい | 452 (42.2) |
| 3. どちらかといえば暮らし続けたい | 370 (34.6) |
| 4. あまり暮らし続けたくない | 75 (7.0) |
| 5. 暮らし続けたくない | 16 (1.5) |
| 無回答 | 9 (0.8) |

問 13. 余土地区では、よりよい地域づくりを進めるため、松山市と連携して「まちづくり協議会」の設立を目指して準備会を立ち上げています。あなたは、今後の「まちづくり協議会」に何を期待しますか？（複数選択可）

- | | |
|---------------------|------------|
| 1. 地域住民の連携 | 396 (37.0) |
| 2. 行政との窓口、パイプ役 | 435 (40.7) |
| 3. 地域の意見集約 | 384 (35.9) |
| 4. 景観や道路整備など地域のデザイン | 354 (33.1) |
| 5. 地域の問題解決 | 385 (36.0) |
| 6. 安全、安心 | 734 (68.6) |
| 7. 人材育成 | 127 (11.9) |
| 8. 郷土愛の醸成 | 86 (8.0) |
| 9. コミュニティ活動の充実 | 230 (21.5) |
| 10. 道路や公園など公共施設の整備 | 586 (54.8) |
| 11. 余土中学校の移転 | 187 (17.5) |
| 12. 中学校跡地の活用方策の検討 | 220 (20.6) |
| 13. その他（自由意見） |) |

問 14. まちづくり協議会はどのようなメンバーが望ましいですか？（複数選択可）

- | | |
|----------------------------|------------|
| 1. 公募 | 442 (41.3) |
| 2. 町内会や公民館など既存のまちづくりの組織の役員 | 475 (44.4) |

3. 地域の推薦	425 (39.7)
4. 市役所職員の出向	222 (20.7)
5. 学識経験者	324 (30.3)
6. その他 (自由意見))

問 15. まちづくり協議会にボランティアとして参加してみたいですか？

1. 参加したい	23 (2.1)
2. 機会があれば参加したい	523 (48.9)
3. 参加したくない	505 (47.2)
無回答	19 (1.8)

問 16. あなたの性別は？

1. 男性	459 (42.9)
2. 女性	603 (56.4)
無回答	8 (0.7)

問 17. あなたの年齢は？

1. 20 歳代	85 (7.9)
2. 30 歳代	192 (17.9)
3. 40 歳代	183 (17.1)
4. 50 歳代	207 (19.3)
5. 60 歳代	210 (19.6)
6. 70 歳以上	190 (17.8)
無回答	3 (0.3)

問 18. あなたの世帯構成は？

1. 単身	130 (12.1)
2. 夫婦のみ	293 (27.4)
3. 2 世代 (夫婦と子供)	514 (48.0)
4. 3 世代以上	120 (11.2)
無回答	13 (1.2)

問 19. あなたのお住まいは？

1. 持家 (家族のものも含む)	808 (75.5)
2. 賃貸	256 (23.9)
無回答	6 (0.6)

問 20. あなたは余土地区に何年お住まいですか？

- | | |
|------------------|------------|
| 1. 10 年未満 | 277 (25.9) |
| 2. 10 年以上 20 年未満 | 202 (18.9) |
| 3. 20 年以上 30 年未満 | 226 (21.1) |
| 4. 30 年以上 | 361 (33.7) |
| 無回答 | 4 (0.4) |

問 21. あなたの現在の居住地区は？

- | | |
|--------|------------|
| 1. 市坪 | 113 (10.6) |
| 2. 保免 | 334 (31.2) |
| 3. 余戸東 | 165 (15.4) |
| 4. 余戸中 | 187 (17.5) |
| 5. 余戸南 | 174 (16.3) |
| 6. 余戸西 | 91 (8.5) |
| 無回答 | 6 (0.6) |

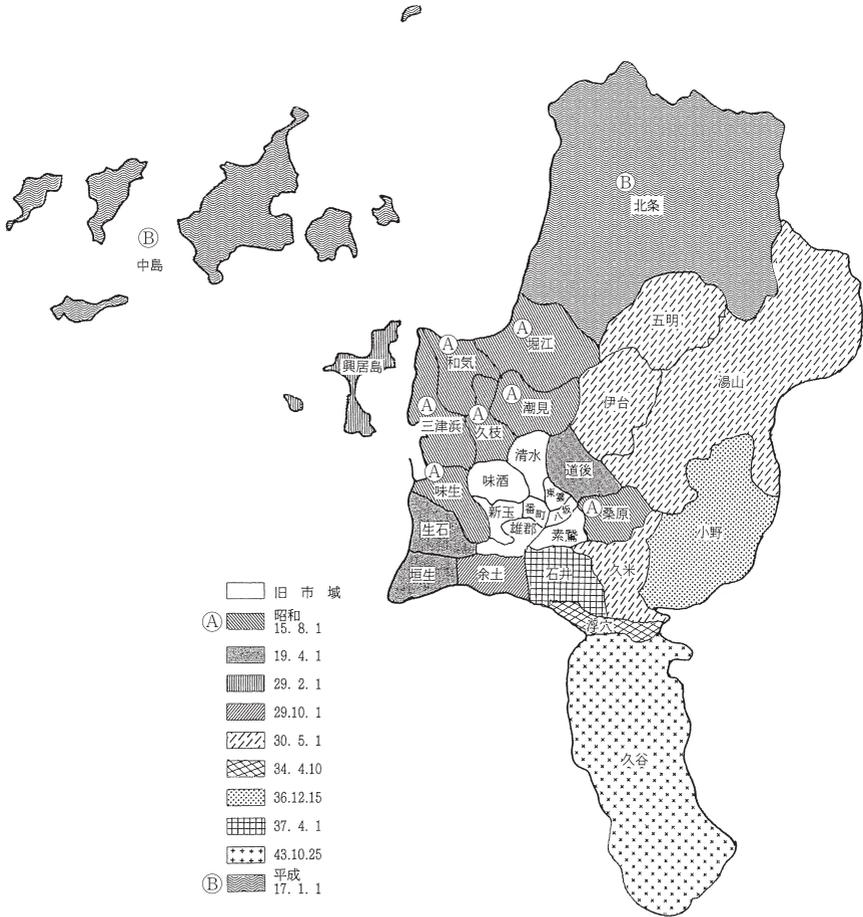


図1 松山市の市域の変遷

出処)『松山市統計書(平成18年度版)』松山市役所